

「お米の陳列・販売状況緊急チェック」(期間8月21日~31日)

新日本婦人の会 2024年9月10日

お米の陳列・販売状況の実態をつかもうと、緊急のチェック調査(オンライン)を会員に呼びかけたところ、35都道府県から770の回答が寄せられました。調査店舗は全国チェーンのスーパーをはじめ、農協や生協、外資系、業務用のスーパー、道の駅、米穀店、大型薬局店などです。お米の陳列状況は、「全くなかった」「少しだけあった」と合わせて9割の店で米がない異常事態となっていました。特に消費地である都市圏での「米がない」状況は深刻ですが、生産県や産地直販の店舗でも例外ではありませんでした。

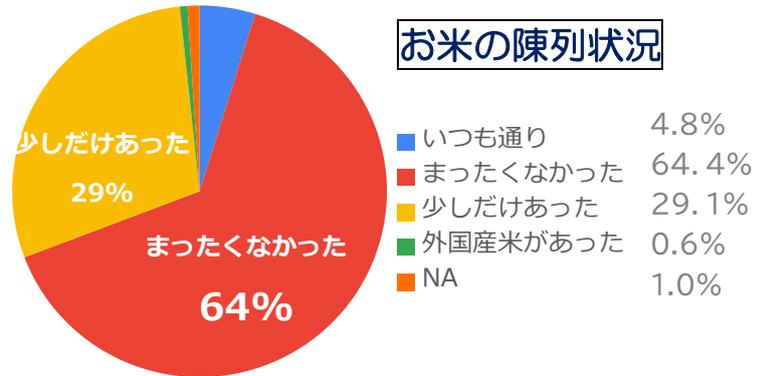
陳列量が少ない理由について店に尋ねると、発注しても「入荷できなかった」14.2%、「入荷量が少なかった」14%、「入荷したが、すぐ売れた」19%と回答。空いている棚にレトルトご飯、カップ麺、餅を陳列してあるとの報告が多く、数店舗ながらアメリカ産米やタイ米が置かれていたところもありました。また品薄による「値上がり」が生じていると27.5%が答えています。

自由記述欄には米が消えた衝撃とともに、あらゆるものが値上がりし、暮らしが大変になる中、主食米の値上げへの不安もつづられています。同時に「農業に力を入れて」「国産米を守る対策を」「後継者不足を真剣に考えないと」などの要望がありました。

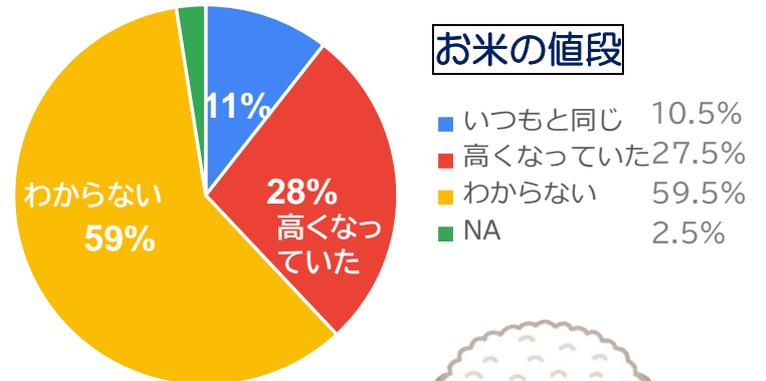
自由記述欄から

- ・埼玉在住の娘から「米がスーパーでも通販でも買えない。買える？」と連絡が来て、スーパーに行ったら棚はガラガラ2キロ1667円のコシヒカリ3袋ともち米だけ。
- ・田舎町のJAスーパーでもお米が売って無くて入荷の予定無し。本当にびっくり。
- ・産直をうたっているスーパーにも、全くお米が売られてない。田舎でもないのに都会は困ってるでしょう。
- ・コープの共同購入でもカタログにあっても供給出来ないとお知らせが。
- ・地域内で取引の広い米穀店。大元が入手困難で取引高の多い順に納入。病院や施設に優先順位つけて届けているが、疲弊してる。
- ・市内3か所回ったが何処もありません。若いお母さんが「9月から弁当があり困る。今は朝はパン夜は麺でしのいでいる」と。
- ・食べ盛りの子がいるのに5キロ米で値段が高く家計に影響が出て大変。
- ・見に行くたびにお米が値上がり、品数もなくなり驚いた。
- ・お米が価格高騰していて、このまま続くと生活が困難になる恐れが！
- ・お米もご飯のパックもなく「食糧危機が、もうやってきた」と思いました！
- ・田圃がどんどん減っていつかこんな日が来るかもと思っていたがまさかこんなに早く来るとは。
- ・災害時の事も考えて普段から国産米を守る国策がしっかりしている必要がある。
- ・気候変動や世界情勢が危うい中、自国で食料を生産することが大切。もっと国に農業や畜産、漁業にしっかりした政策をしてほしい。
- ・食は命の問題です。農業に力を入れて欲しい。
- ・お米も不足ということは、今後手に入らない食材が他にもでてくるのでは？自国の食料を自国でまかなうようにしないと、将来、死亡の原因が餓死ということがおこりそう。
- ・たわわに実った稲をみて台風の被害がないことを祈った。新米になっても価格は高いままだろう。気候の変化、後継者不足について真剣に考えないといけない。
- ・国内の農業をもっと守ってほしい。余りを他国に輸出できるくらい。

お米の陳列状況



お米の値段



お店の人に理由を聞くと

